

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第59回 ビジネス文書実務検定試験 (29. 11. 26)

第1級

速度部門問題

(制限時間10分)

試験委員の指示があるまで、下の事項を読みなさい。

〔書式設定〕

- 1行の文字数を30字に設定すること。
- プロポーショナルフォントは使用しないこと。

〔注意事項〕

1. ヘッダーに左寄せで受験級、試験場校名、受験番号を入力すること。
2. 問題のとおり、すべて全角文字で入力すること。
3. 長音は必ず長音記号を用いること。
4. 入力したものの訂正や、適語の選択などの操作は、制限時間内に行うこと。
5. 問題は、文の区切りに句読点を用いているが、句点に代えてピリオドを、読点に代えてコンマを使用することができる。ただし、句点とピリオド、あるいは、読点とコンマを混用することはできない。混用した場合はエラーとする。
6. 時間が余っても、問題文を繰り返し入力しないこと。

第59回 ビジネス文書実務検定試験 (29. 11. 26)

第1級 速度部門問題 (制限時間10分)

生き物の中には、厳しい自然の中で生き残るために、生活の場所
を変える動物が存在する。この移動する現象は「渡り」と呼ばれて
おり、季節に合わせて周期的に行われたり、一生に一度だけ生まれ
た場所へ戻ったりするパターンがある。私たちが見かける渡り鳥は
その代表的な例であり、季節ごとに遠く離れた繁殖地と越冬地の間
を行き来している。

冬の使者ともいわれているオオハクチョウは、シベリアで春から
秋にかけて繁殖活動を行う。冬になると湖や沼が凍結するために、
食料である水草を求めて日本に飛来する。その移動の詳細なルート
については、長い間不明であった。この謎を解くために、GPSを
使用した共同調査が、日本とロシアの科学者により行われた。その
結果、約3000キロに及ぶ飛行ルートが判明した。

過去の研究から、渡り鳥が太陽や星の位置を利用したり、風の向
きや気圧の変化を感じたりすることで、飛行ルートを選び出してい
ることはすでに分かっていた。今回の調査結果で、渡り鳥は目的地
に向かうルートに誤差が生じると、進路に修正を加えることが判明
した。つまり、渡り鳥はリアルタイムに判断をしながら、最短距離
を飛行していることが裏付けられた。

今までの調査研究の成果は、幅広い分野への応用が期待されてい
る。現在、世界の自動車メーカーが、自動運転に向けた技術開発を
競うように進めている。その技術を実用化するためには、渡り鳥の
持つ能力が役立つと考えられている。この能力には、まだ解明され
ていない点が多くある。現在も、科学者たちが地道な研究を続けて
おり、少しずつ進んでいる。今後、渡り鳥の持つ能力から生み出さ
れた技術が、私たちの生活を一層便利にしてくれるだろう。